



大阪市が吉本興業株式会社と包括連携協定を締結しました!



住之江区住みます芸人「雷鳴」のお2人
(左から)ハママラさん・OKI(オキ)さん

大阪市は吉本興業株式会社と、相互の連携を強化し、市民サービスの向上と地域の一層の活性化を推進するため、平成29年11月22日、包括連携協定を締結しました。今後、笑いの力で大阪を元気にする地域活性化プロジェクトを進めていきます。

その一つが、「大阪市24区住みます芸人」が実際に各区に住み地域を

盛り上げる取組みで、住之江区では「雷鳴」のお2人が、万博誘致や地域を盛り上げる活動を行います。また、桂文枝さんが、24区それぞれの特色を盛り込んだ創作落語を新たに制作、各区で披露し地域の魅力を発信します。この度、住之江区の創作落語が24区で最初に披露されることが決まり、早速、西原区長がその思いなどを文枝さんにかがいました。

桂文枝さん×西原昇区長 対談 ～創作落語への思い～

《やすしさんに連れて行ってもらって》

西原 まず、住之江区ではじめに落語を披露していただくことになり、ありがとうございます。師匠の住之江のイメージは?

文枝 私は、ポートレースを(横山)やすしさんに連れて行ってもらって、その時は、本当に活況を呈していたように思いますね。2025年に万博が誘致されると、賑わう場所になってくるのでは?大阪の端っこだけに頑張らないと。

西原 そうなんです。世界を見ましても、海に面しているところから発展しているので、そういう希望を持っているんですけど。

文枝 僕も大正区や港区で海を見ながら育ちましたね。坂本龍馬にしても、御木本幸吉にしても、海を見て育てて大志を抱くわけですから。若い人が集まってくれる場所をつくってください。

西原 南港のプロジェクトとして、もっと若い人を呼び込もうというのがありますし、教育の面では、海外の大学入学資格を取得できる中高一貫校が、2年後にはできることとなります。未来に向けたまちづくりに取り組んでいるところです。

《「宿題」はね》

西原 創作落語を僕も沢山聴かせていただいています。以前、お弟子さんが演じる、「宿題」という落語を聴かせていただきましたが、後で聞けば、師匠の創作落語だったらしいですね。どこで発想されるんですか。

文枝 「宿題」はね、はじめは、子どもの宿題の中に旅人算があって、21分後に弟が105m遅れたので、これではいけないと、1分間に20m早く歩いたところ...というのを讀んだ時に、こんなこと教えとってええんかと。もっと大事なことは、兄弟が仲良く歩くことではないのかと。それと、算数の問題の中で、

言葉も漢字も入ってきますよね。道德、言葉、漢字、そういうものを一つの教育の中に一貫して盛り込んでいかないと。そんな考えがあって落語をつくったら、みんながあれやりたいというので、色んな噺家に教えました。

《伝達じゃない、話すこと》

西原 教育の話になったんですが、今の子どもたちには、想像する力をもっと養ってほしいと思うんですね。落語を聴いていると、頭で色々な事を考える力が必要じゃないですか。

文枝 そう思いますね。僕らはラジオの世代ですから、ラジオのドラマを聴きながら想像した。落語はシンプルな芸ですから、皆さんの想像力が頼りなんです。そして、今一番欠けているのは、想像する力もそうですけれども、話す力なんです。お父さんやお母さんや兄弟もおり、会話はあるんですよ。ただ、言葉のキャッチボールはあっても、それは伝達事項みたいなもんなんです。「勉強しときや。」「帰りにこうしいや。」「うん。でも、「今日、こんな楽しいことがあったんや。」「どんなんや。」「隣のおじちゃんこうやって、こんなこと言うてはったで。」そういうところから学ぶことが多いと思います。そういう意味でも、話すことは大事ですから、これをきっかけに落語をみんなにもっと聴いていただいて、話すことの大事さを分かっていたらいい。伝達じゃない、話すこと。同じ言葉が繋がっていても、話をするということが、伝達することは違うと思いますね。

西原 それをお聴きしてですが、文枝さんが司会をされている番組を拝見しますと、引き出す力がすごいですね。素人の方なので、やはりそんなに話が上手なわけではないじゃないですか。うまく引き出すコツはあるんですか。

文枝 それは、やはり聴く力を養うことですね。相手の話を聴いているうちに、どこかやはり興味を持つところがある。そういう興味をぶつけていく、と

いうことやと思いますね。「話す力」は「聴く力」ということですね。



《住之江で落語をつくったら》

西原 分かりました。ぜひ、住之江の面白い落語をつくっていただいて、そういうところも区民の方に意識を持っていただきたい。やはり、大阪文化ですから、人が話すということが地域のつながりの根本だと思っていますので。

文枝 大阪は、もともとそういうところ。太閤さんの時もそれ以前もそうですけれど、同じ宿屋さんなら宿屋さんを日本橋に集めた、材木屋を集めた、みたいなところ。隣同士の商人(あきんど)が、商売になったらみんなそれぞれが敵ですけど、普段は楽しいことを言い合って、仲良くする。そこで大阪の洒落言葉が生まれるということですね。それと、僕は、住之江で落語をつくったら、住之江の区の皆さんだけではなくて、全国、また、大阪地域の全部に発信できるようなものにしたいなと。そうすると、住之江に興味持ってもらえるのではないかと思います。

西原 ありがとうございます。

文枝 ただ住之江につくって、住之江の皆さんに聴いていただくだけじゃなくて、そのようなかたちを区長さんに考えていただいてね。皆さんに住之江を知っていただくようにしていきたいと。

西原 ぜひ、頑張らせていただきます。本当にありがとうございました。



「参地直笑 祭～住之江区創作落語披露イベント～」にご招待します! 無料

【日時】3月17日(土) 14:00開演

【場所】すみのえ舞昆ホール

【出演者】桂文枝

雷鳴(住之江区住みます芸人)ほか

【対象】区内在住、在勤、在学の方

【定員】300名

【応募方法】

往復ハガキに住所・氏名・年齢・電話番号を記載のうえ、右記応募先宛て郵送でお申し込みください。

【応募先】

〒559-8601 御崎3-1-17 住之江区役所総務課

「住之江区創作落語披露イベント」ご招待 係

【応募締切】

1月31日(水) 当日消印有効

応募者多数の場合は抽選となります。

※抽選の結果は、発送をもってかえさせていただきます。

【問合せ】区総務課 窓口④番 ☎6682-9625